

平成22年度一般会計当初予算説明資料

2款 総務費

2項 企画費

交通政策課（内線：7100）

3目 交通対策費

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 将来を見据えた高速鉄道網検討事業	626	0	626				626	
トータルコスト	2,240千円（前年度 0千円）[正職員：0.2人]							
主な業務内容	会議資料作成							
工程表の政策目標（指標）	智頭急行スーパーはくと等の増便・延伸など幹線鉄道網の充実 関西圏との交流人口の増（スーパーはくと、高速バス利用者数の増） （智頭急行利用者数：1,200,000人） 但馬との直通列車の増便などダイヤの改善							
事業内容の説明								
1 事業の目的・概要 高速交通網のインフラ整備の状況等を踏まえ、長距離移動手段としての各交通機関の需要予測等を改めて検証し、鳥取県の高速鉄道網の目指すべき将来像やその実現に向けた課題、当面取り組む対策等について検討を行う。								
2 主な事業の内容 「将来を見据えた高速鉄道網検討会（仮称）」を設置し、検討を行う。 （1）委員数 10名程度 （2）委員構成（想定） <ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者（公共交通、観光、経済関係分野の研究者） ・観光関係者（観光連盟、旅行業者等） ・経済団体（商工会議所等） ・行政関係者（県及び市町村の交通・観光担当） ※必要に応じ、鉄道技術開発担当者や鉄道事業者をアドバイザーとして招へいする （3）検討期間 平成22年度（5回程度） （4）検討内容 <ol style="list-style-type: none"> ①県内の高速鉄道網の現状、課題、ニーズ等の把握・整理 ②高速道路等、他の高速交通網の将来計画、需要見通し等の整理 ③今後の鉄道需要予測や新技術の開発動向の整理 ④今後鳥取県が目指すべき高速鉄道網の将来像の提言 <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な将来像の提言 ・将来像を前提とした当面の整備目標・方策のとりまとめ ⑤将来像を実現させるために解決すべき課題の抽出 （5）予算額 626千円（委員謝金、交通費、アドバイザー謝金等）								
3 これまでの取組状況、改善点 【指標】智頭急行利用者数：1,200,000人 → 【現状】（H20）1,213,839人 鉄道事業者との定例勉強会等を通じ、将来の高速鉄道網のあり方についても意見交換を実施しているが、鳥取県としての青写真がないこと等もあり協議が進んでいない。 また、余部橋梁の架替え竣工を機に山陰本線のダイヤ改善の実現を図るため、引き続き鉄道事業者と積極的に働きかける必要がある。								